

保護者の皆様へ



東北大学医学部 医学部長

八重樫 伸生

新入生のご家族のみなさん、入学おめでとうございます。また在校生のご家族のみなさん、進学おめでとうございます。

昨年に引き続き今年も新型コロナウイルス感染蔓延のために4月の入学式開催がなくなりましたが、大学内部で検討し8月9日(山の日)に仙台市体育館で行うこととなりました。午前中は新一年生のために、午後には昨年入学式ができなかった新二年生のために、入学式が挙行されます。ただし、ご家族の参列はかなわず学生だけが参加する式となります。この会報がお手元に届けられる頃にはすでに終了しているかもしれませんが、こういった学生生活のけじめとなる式典が開催されるようになりましたことに安堵しております。

医学部在籍中には学生が参列すべき公的な式あるいはセレモニーがいくつかあります。

一つ目は入学式です。学生もご家族も入学式に参加することで東北大学医学部への入学の喜びをかみしめ、未来への夢と希望に胸を躍らせることと思えます。

二つ目は(医学科ですが)解剖実習終了後に行われる遺骨返還式・慰霊祭です。解剖実習で使われるご遺体の多くは篤志献体によるものですが、遺骨返還式は実習で使わせていただいた遺骨をご遺族にお返すの儀式であり、慰霊祭は献体いただいた方々のご冥福をご遺族とともに祈りする場です。遺骨返還式・慰霊祭には解剖実習を終えたすべての学生の参列が義務付けられていますが、毎年多くの教職員も参列しており、医学教育に携わる者は感謝の気持ちを表し、医療従事者は自分たちの使命を再認識する機会となって

います。

三つ目は白衣式・ウエアセレモニーです。学生生活の前半は教室内での講義や実習による知識の習得が主であり、後半になってはじめて病院に出て臨床実習・臨地実習を行います。その橋渡しの時期に行われる儀式が白衣式・ウエアセレモニーです。病院という現場で患者さんやご家族に接するための基本的な知識を十分習得したと認められた学生たちは、教員から白衣を着せてもらい、入学時に抱いていた初心に立ち返り、明日からの病院実習へと進む決意を新たにします。

四つ目は卒業式です。医学部でのすべてのカリキュラムを学び終え、十分な知識や技術を得たと認定された学生には、卒業証書とともに学士(医学)・学士(看護学)・学士(保健学)の称号が授与されます。

私たち教職員は学生一人一人がすべての式を無事通過できるよう最大限の支援・指導をしていきたいと考えております。後援会の皆様におかれましても東北大学医学部の教育にご理解とご支援をお願いいたします。



東北大学医学部学生後援会(PTA)への変わらぬご支援を よろしく願いいたします

東北大学医学部学生後援会会長 東北大学大学院医学系研究科内部障害学分野

上月 正博



盛夏の候、ご父兄の皆様方に於かれましてはご健勝のことと存じます。

東北大学医学部学生後援会(PTA)は、医学科・保健学科の学生の皆さんがよりよい学生生活を送れるための支援と、ご父兄との連携を目的に設立されました。今年度の本後援会の加入率は医学科94.3%、保健学科71.6%に達しております。本後援会にお振り込み頂きました会費は、医学部図書館への学生の参考図書の寄附、学生の白衣あるいは医学部バッジの購入などに充てられております。特に昨年は、医学部・大学病院に不足していたマスクを18,000枚ほど提供し、学生の病院実習などに役立てていただきました。

昨年来、コロナ禍の影響が続き、入学記念祝賀会をはじめ活動の制限が続いております。しかし、医学部学生も全員ワクチン接種が終了し、大学関係者の皆様のきめ細かい指導・配慮のおかげで、病院実習も他大学に先立って行われ、リモートと併用しながらも対面講義が再開され、学生もよく適応してきています。今後新型コロナウイルスが早期に収束し、従来のようにご父兄・新入生、そして教員の方々の中で楽しい交流の場をもてるようになることを心待ちにしております。



私が子どもだった1970年代は、高度経済成長の波にのりカラーテレビなど電化製品が家庭に普及する一方、公害、光化学スモッグ、オイルショック、交通地獄、通勤ラッシュなど多くの困難に見舞われました。しかし、現在ではヘドロはなく、水は美味

しく、青空の日が増え、交通事故死は激減し、電気自動車が実用化されています。これらは困難の最中に、先人が果敢にチャレンジし、改良を行ってきたためです。困難なときでも挑戦をやめなかった先人の努力によって、この世の中で重要なことの多くは成し遂げられてきたのです。

このコロナ禍では、経済保障の遅れ、感染症予防対策の不備、医療逼迫時や患者増の際の準備不足や対応の遅れ、ICTの活用の遅れなどわが国の弱点が明らかになりました。先人になって、私たちも多くの創



意工夫で乗り切るべく挑戦し、苦難を乗り越えた時、新たな次元の幸せにとつながるはずです。すなわち、有事の際の医療体制の組織化、在宅勤務、IoT、AIなどが一気に進歩・普及して、一層の女性の社会進出や通勤ラッシュの緩和など、コロナ前よりもっと明るい未来がくると信じます。学生にとってもコロナ禍でどのように対処したのか、解決したのかを学ぶ良い機会となり、これからの人生に大いに参考になると思います。

コロナ禍が収束すれば、入学記念祝賀会、新入生全員参加のアドバイザー教員とのオリエンテーション、学生の研究成果発表会、卒業祝賀会、クラブ・サークル活動、医学部学生会、オープンキャンパスに参加する学生へのユニフォームや医学祭などにも本後援会は援助を再開する予定です。ご父兄の皆様におかれましては、本後援会へのご支援をこれからもどうかよろしく願い申し上げます。

附属図書館医学分館リニューアルオープンについて

東北大学附属図書館医学分館長

笹野 公伸



医学分館は老朽化に伴う改修工事のため2019年8月から休館しましたが、即時に加齢医学研究所内に臨時図書室を開設し、星陵キャンパスに所属する学生・教職員の学習・研究・教育のサポートを継続しました。当初は竣工予定が2020年8月下旬で、2021年1月の開館を目指しておりましたが、折しも新型コロナウイルスの影響で建築設備の一部が入手困難となったことにより、2カ月の工期延長を余儀なくされ、10月末の竣工となりました。

11月から書架の設置や30万冊以上の書籍の移転作業を開始し、3月のオープンを目指しておりましたが、2月13日に福島県沖を震源とする震度5強の地震に見舞われました。大半の書籍をようやく整然と書架に並べた矢先のことで7万冊以上が落下し、建物も一部が破損する結果となりました。急ピッチで復旧作業を進めるなか、3月20日に余震と見られる震度5弱の揺れがさらに追い打ちを掛けました。

これにより、やむを得ず新年度に合わせたスタートを断念することとなりましたが、利用者の安全確保を第一に考え、危険と判断される箇所の補修工事を4月に行い、5月10日によりやくオープンすることができました。

学生をはじめとする利用者の方には長期にわたり大変ご不便をおかけしましたが、医学分館は約35年の

時を経て、空調設備やトイレの一新、書架の耐震強化、グループ学習室の拡充など、学習・研究環境を大幅に改善した安全で快適な空間に生まれ変わりました。また、隣接する臨床講義棟と渡り廊下で接続され、利便性が向上したことも大きな特徴の一つです。

医学分館の開館時間は、平日9:00～20:00ですが、星陵地区に所属する学生・教職員は、早朝・夜間の7:00～9:00、20:00～24:00に加え、土・日・祝休日の7:00～24:00も利用可能で、平日は学生を中心に延べ500人以上が来館しています。

このような状況下で、新型コロナウイルス対策に注力しているのは言うまでもなく、入館時はサーマルカメラで体温測定・マスク着用のチェックをクリアした上で、学生証等による本人確認をしないと閲覧室へ入ることができません。また、閲覧席にはアクリル板を設置しているほか、パーティションや通路によって隣席と隔てられた席が多数あり、その上で館内でのマスク着用を促しています。さらに、グループ学習室には、CO₂濃度を検知して風量を自動調節する換気設備のほか、高性能の空気清浄機も設置しております。

コロナ禍の収束にはまだ時間がかかると思われませんが、引き続き利用者の安全確保、学習・研究環境の整備、図書館サービスの向上に努めて参ります。



医学分館案内ツアーを開催しました

東北大学附属図書館医学分館長

笹野 公伸

5月17日～28日の2週間、リニューアルオープンしたばかりの医学分館を図書館職員が案内・解説するツアーを開催しました。

1年生は言うまでもなく、今年進学した2年生も改修工事に伴う長期の休館によって、医学分館を利用するのは初めてとなります。また、昨年度は新型コロナウイルスの影響で、川内にある附属図書館本館も利用する機会が少なかったと思います。そのため、八重樫医学系研究科長から、特に1・2年生に対し高校の図書室とは違う大学の図書館の使い方をぜひとも説明して



ほしい、とツアー開催の協力依頼がありました。

ツアーでは、3密を避けるため1組6人以内の編成とし、合計で24回実施しました。参加人数は76名、うち医学科・保健学科の参加者は、1年生が41名、2年生が12名、3年生以上が8名でした。

参加者は、サーマルカメラと連動している入館ゲートの説明を受けたあと、約20分かけて館内を一周し、資料や座席の配置、本の借り方、文献の探し方などを学びました。途中、『Journal

of the American Medical Association (JAMA)』（米国医師会雑誌）が約140年前の創刊号から書架に並んでいて手に取って読めることに驚いたり、電動式の書架に興味を示したりしていました。

また、今回は特別に、「解剖の資料 いろいろ」と題したミニ展示を企画し、『解体新書』（1774年刊）や、近代病理学の創始者と言われるヨハン・B・モルガーニ（1682-1771）の『病気の座と原因』（1767年刊）など当館が所蔵する貴重書を展示したほか、当館で導入した、3Dで可視化されたインタラクティブな電子ツール Visible Body「Human Anatomy Atlas」（人体解剖アトラス）も合わせて紹介しました。

アンケートでは、机上が広く多様な形態・雰囲気の間読席や6部屋に拡充したグループ学習室への高い関心が示され、積極的に利用したいとの前向きなコメントが複数寄せられました。学生のみなさんには、ぜひ医学分館を有効活用していただき、自分の学習スタイルにあったお気に入りの席で、勉学に励んでいただくことを希望します。



第 11 回医学部医学科白衣式報告書



医学部医学科長
石井 直人

令和3年2月1日（月）、第11回医学部医学科白衣式が医学部開設百周年記念ホールー星陵オーデトリウムで開催されました。

来賓に東北大学病院長、看護部長、診療技術部長をお招きし、八重樫医学部長及び学生代表2名が出席し、その他の新5年次学生及び教授、教育担当主任の先生方にはオンラインにて参加いただくことにより、会場における参加者数を極力減らし、COVID-19の感染防止対策を十分に行った上での開催となりました。

白衣式では、医学部長より新5年次学生代表へ大学のロゴマーク入りの白衣が授与され、次いで Student Doctor 認定証および病院カードが授与されました。

学生代表からは、これまで支えていただいた多くの方々への感謝や、医師を目指す者としての責任と心構

え、特に COVID-19 の流行する中で最前線に立って実習に臨むことへの決意が述べられました。

例年とは異なる形式となりましたが、今年度も荘厳な雰囲気の中、臨床実習開始の節目としてふさわしい晴れやかな式典となりました。

最後に関係者を代表して、医学部学生後援会からのご援助に心より感謝申し上げます。



医学部保健学科看護学専攻のウェアセレモニーを開催しました

令和3年7月5日（月）医学部保健学科看護学専攻のウェアセレモニーが、web 開催されました。

大和田副研究科長、大森保健学科長、鈴木看護部長、上月医学部学生後援会会長から、実習に向かう学生に対して

の激励の言葉がありました。

その後、3年生全員の名前が読み上げられ、記念バッジが代表の泉さんに授与されました。最後に、学生代表の飯田さんが、実習に向かうにあたっての決意表明を行いました。



令和2年度学位記伝達式がオンラインで開催されました

令和3年3月25日（木）医学部医学科、保健学科、大学院医学系研究科の学位記伝達式を執り行いました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、代表学生のみキャンパス内会場に集まっての開催となりましたが、

式の様子はオンライン配信され、卒業生・修了生をはじめ、多くの保護者や教職員がオンライン上で参加しました。

卒業生、修了生のみなさん、誠におめでとうございます。



保健学科卒業生から学生後援会へ花束をいただきました

令和3年3月18日（木）に保健学科謝恩会幹事代表から学生後援会に感謝のお言葉と花束をいただきました。

上月正博後援会会長からも今後に向けて激励の言葉を贈りました。

卒業で忙しい中、ご来訪いただき誠にありがとうございました。

新天地でも健康に留意し、ここで学んできたことを活かし、これからも頑張ってください。今後の活躍に期待しております。



留学 参加レポート 沖縄 OIST 沖縄科学技術大学院大学

医学科 4 年生 茂田 治樹さん
参加期間 2020 年 10 月 1 日～12 月 23 日

私は Erik de Schutter 教授の脳神経科学の研究室に所属し、アストロサイトという脳に存在するグリア細胞のコンピューターモデルを作る研究に取り組みました。研究は生物学、数学、情報工学それぞれを専門とする研究者と協力しながら進めていきました。いろいろな研究者と触れ合うことで、医学だけではなく学際的な学びを得ることができました。学生と研究者の半数以上が外国人で、学内の公用語も英語だったため、英語でのプレゼン能力や議論する力が大きく向上しました。

また短期留学を通じて、脳科学に対する関心が高まり、自分が将来取り組みたい研究の方向性を見つけることができました。OIST での経験は今後医師として働くうえで必ずプラスになると思います。



アイデア・チャレンジ 2020 「すこやかに働く」コンペティション 学生の部において、医学科 1 年生の立石朱紗美さんが最優秀賞を受賞

医学科 1 年生の立石朱紗美さん、丸山千智さん、佐藤雄大さん、菅原優人さんが、Women in Data Science 主催（以下 WiDS）『アイデア・チャレンジ 2020 「すこやかに働く」コンペティション学生の部において、最優秀賞を受賞しました。

WiDS は 2015 年から始まった米国スタンフォード大

学を中心とする国際的なプロジェクトで、ジェンダーに関係なくデータサイエンス分野で活躍する人材育成を目的とした活動を行っています。その WiDS が主催する第二回アイデア・チャレンジは、「すこやかに働く」をテーマに掲げ、データに基づく新規性の高いかつ斬新なアイデアを募集していました。

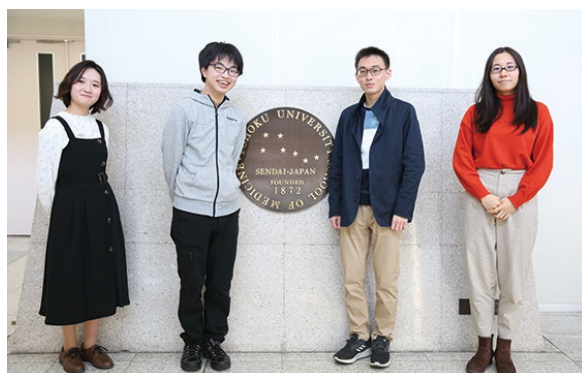
コンペティション応募に至ったきっかけや、企画のポイント、今後の学校生活への抱負などについて、4 人にインタビューを医学系研究科 HP に掲載しております。ぜひご覧ください。

【医学系研究科 INTERVIEW】

https://www.med.tohoku.ac.jp/feature/pages/interview_219.html

【Women in Data Science】

<https://wids-ycu.jp/>



クラウドファンディングご寄附のお願い

【プロジェクト名】 早期発見と個別治療最適化で、膵臓がんで亡くなる患者さんを減らしたい

【募集期間】 2021年7月2日（金）10:00～2021年9月30日（木）23:00 【目標金額】 1,500万円

東北大学大学院医学系研究科病態病理学分野は、膵臓がんの早期発見と個別治療最適化の研究資金を得るため「READYFOR」にてクラウドファンディングプロジェクトを7月2日に公開し、1,500万円を目標に寄附募集を開始いたしました。

膵臓がんは極めて難治性のがんで、年間に国内で膵臓がんにかかる方は4万人、亡くなる方は3万5千人と



なっています。がんの根治度を示す指標である診断後の5年生存率はわずか8.5%、平均余命1年半程となっていて、各種がんの中で最も助かる可能性の低いがんです。しかし、膵臓がんにかかる方は年々増え続けており、2030年には4万人になると予測されています。膵臓がんで亡くなる方を減らすための鍵は、早期発見と患者さん個々に合った治療にあります。本研究チームはこの二つの鍵を解明する研究を進めており、そのための研究資金を得るため本クラウドファンディングプロジェクトを立ち上げました。

本研究の推進により、膵臓がんの早期発見および患者さんお一人おひとりに最適な治療を行うことが可能となると考えられます。膵臓がんで亡くなる患者さんを減らしたいという願いを実現するため、是非ともご支援をお願いいたします。

プロジェクト URL

<https://readyfor.jp/projects/tohoku-PDAC>



クラウドファンディング「With コロナ！地域医療と先進医療の要を育てる」募集終了のお知らせと御礼

4月30日23:00をもちまして、クラウドファンディング「With コロナ！地域医療と先進医療の要を育てる」の募集を終了いたしました。

2月2日のスタートと同時に、大変多くの皆様からご支援と応援のお言葉を賜り、期間終了前の4月9日には目標金額に到達することができましたこと、厚く御礼を申し上げます。

クラウドファンディングでいただいたご支援は、ECMOや人工呼吸器等の高度な機器を扱う医療従事者、地域医療を担う医療従事者の育成のため、クリニカル・スキルスラ

ボの機器や施設の整備に活用させていただきます。

これからも皆様のご支援のもと、地域の皆様が安心して暮らせるように、地域医療と先進医療を提供してまいります。引き続き、本学へのご理解とご協力をお願い申し上げます。



編集後記

新入学の学生・保護者の皆様、ご入学、ご進級おめでとうございます。

本年度も、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い学内行事等のイベントも中止や延期となりました。

学生後援会主催の医学部入学祝賀会も残念ながら中止となりました。

現在もまだ先が見えない状態ではございますが、後援会といたしましては今後も医学科及び保健学科で計画されます様々な行事への助成及び学生の教育活動への支援などを継続して行い、医学部全体の充実をより一層図っていきたく

と思っています。

学生後援会事務局 (PTA)

- 東北大学大学院医学系研究科・医学部ウェブサイト：
<http://www.med.tohoku.ac.jp/>
- Twitter: https://twitter.com/tohoku_univ_med
- Facebook:
<https://www.facebook.com/Tohoku.University.School.of.Medicine>
- 東北大学医学部学生後援会ウェブサイト：
<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>



東北大学医学部学生後援会 (PTA) 事務局

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1

TEL: 022-717-7870 E-mail: med-koen@med.tohoku.ac.jp

<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>